

令和4年11月30日

多発する自然災害から子供たちを守るために ～教員を目指す学生に防災講座を実施～

国土交通省では、近年多発する大規模災害をふまえ、教育委員会・学校等と連携・協力して防災教育の支援に係る取組を強化しています。

そこで、教員を目指す長崎大学教育学部学生に対し、防災・減災に関する深い知見・知識を身につけてもらい、教職に就いた際、生徒が主体的に自然災害から命を守る行動を身につける教育を展開できるようになることを目的とし、長崎大学教育学部、気象庁長崎地方気象台及び国土交通省長崎河川国道事務所が協働し、次のとおり防災教育プログラムを実施します。

1. オンライン防災講座 12月2日（金）10：30より配信開始
※学生のみ視聴可能
2. 大学周辺の防災マップ作成フィールドワーク 12月9日（金）以降
※学生の日程で実施
3. ポスター発表形式のプレゼンテーション 12月16日（金）
 - ・第一部 10：30～12：00
 - ・第二部 14：30～16：00

■取材について

学生の受講状況の取材については、下記に記載の長崎大学教育学部にお問い合わせ下さい。

■問い合わせ先：

（防災教育に関すること）

国土交通省 長崎河川国道事務所 調査第一課長 井手 勲

電話（代表） 095-839-9211

気象庁 長崎地方気象台 水害対策気象官 荒武 康隆

電話（代表） 095-811-4862

（学校への取材に関すること）

長崎大学 教育学部 准教授 井手 弘人

電話（研究室直通） 095-819-2316

E-mail: hirotoi@nagasaki-u.ac.jp

(別紙1)

学校教育での学習内容を規定する学習指導要領が改定され（小学校：令和2年度～、中学校：令和3年度～全面実施）、東日本大震災の教訓や相次ぐ規模の大きな災害の経験を受けて、防災教育を充実させることが示されました。これを受けて、教員養成課程向け防災教育プログラムの充実が図られています。本取組は学習指導要領改定前から取り組まれ、国内でも早くから実施されているもので、約1ヶ月にわたる期間、オンラインを併用したアクティブラーニング形式の必修授業として必ず学生が履修するものとして、全国でも例をみない取り組みです。

【参考：教員養成プログラムとしての防災教育の視点】

長崎大学教育学部 准教授 井手 弘人

授業は大学1年生対象の「初等生活科教育」の一環で行います。

「生活科」は小学校低学年に限定した教科で、多様な教科を横断し、自分の生活圏を主体的に理解し、生活を自ら豊かにしていく児童を育成することを目標としています。

大人がもつ防災知識を単に「伝達」するのではなく、いかに「自分ごと」として子どもが状況を判断し行動することへつなげていくか、が防災教育上の大きな課題になっています。教員養成課程に入学してまだ日の浅い1年生には、学校教育における「知識」と「経験・行動」との関係を整理させつつ、防災教育を通して「教える」—「学ぶ」の関係をデザインする方法を学んでもらいます。

- 防災マップづくり（まち歩き）については、災害リスクのある場所を調べ、避難所の位置、避難する時に増水していたら危険な箇所等を確認し、防災マップを作成します。
- グループごとのフィールドワークは、それぞれの学生の日程で、学生たちが自ら活動します。特定の日時の枠で活動するわけではありませんので、この点、ご了承下さい。また、新型コロナウイルス感染防止のため、感染状況や大学より発出される授業方針次第では、フィールドワークを中止させることもあります。
- 配信ビデオなどのオンライン学習コンテンツは、長崎大学で使っているオンラインプラットフォーム「LACS」上で稼働するようになっています。IDとパスワードで管理されており、外部公開は行っていません。これに関する取材・お問い合わせ等は、井手までご連絡下さい。

※ 防災講座および防災マップの作成を通じた教材研究をもとに、小学校低学年を対象とした「防災」の授業を構想し、ポスター発表形式のプレゼンテーションを行います。

※ なお、12月16日（金）10時30分～時間分の発表については、国の高等学校普通科改革の一環として全国ではじめて設置されました新しい普通科、長崎県立松浦高等学校地域科学科の生徒が来学し、参観する予定です。